

蒲郡市男女共同参画情報紙

はばたき

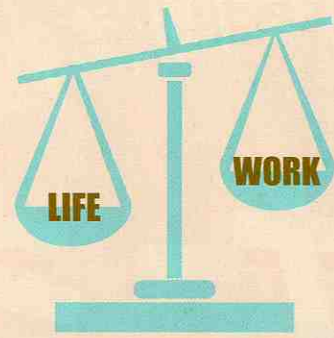
特集●「ワーク・ライフ・バランス」
くだれもが輝ける人生を目指して



「わかちあう 仕事も家庭も 喜びも」

(平成20年度 男女共同参画週間標語)

第15号
2009.3



ワーク・ライフ・バランス

～だれもが輝ける
人生を目指して～

「ワーク・ライフ・バランス」とは、仕事（ワーク）と家庭生活（ライフ）の調和（バランス）をとることです。

仕事や家庭生活、地域社会、自己啓発など、大切な時間は人それぞれ。
長時間労働による心身の健康への悪影響が出たり、何かを犠牲にすることのないよう、
自らが希望する時間配分で、充実した生活を送りたいものです。
さあ、あなたの「ワーク・ライフ・バランス」度をチェックしてみましょう。

はい →
いいえ →

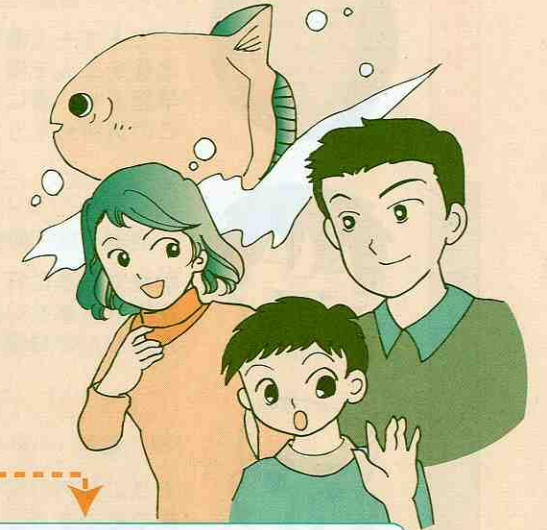
スタート

いつも時間に追われている



仕事や家事は効率よくこなしている

もっと自分の時間がほしい



休日は自分のために時間を使える

ストレスを発散させる方法がある

家族との時間より、
仕事を最優先にしている

地域活動やボランティアなどに
参加している

悩みやグチを聞いてくれる
相手がいる

特に趣味と呼べるものがない

仕事も家庭生活もバランスよく、
今の生活は充実している

自分の時間も仕事の時間も
同じくらい大切だ

今の生活を見直すつもりはない

《すばらしい！》

バランスのとれた生活を送れていますね。
より充実した家庭生活と労働環境のために、
これからもワーク・ライフ・バランスを心
掛けてください。

《あと一歩！》

自分の時間がうまく作れないことに少し
イラだっていないですか。一度、自分の時
間の使い方を見つめ直してみましょう。
より豊かな生活が送れますよ。

《ざんねん！》

時間に追われた余裕のない生活を送って
いませんか。知らないうちに心も身体も
疲れがたまってしまいますよ。一息つい
てリフレッシュしましょう。

男女共同参画にまつわる川柳

入賞作品と
応募者のコメント

蒲郡市では、男女共同参画にまつわる川柳を募集し、去る2月1日「蒲郡男女いきいきフォーラム2009」にて、その入選作品を発表いたしました。

この川柳は男女共同参画社会の実現を目指して、家庭や職場、地域などで男女が互いの能力を生かして協力し合うことの大切さをうたった内容を募集したもので、応募総数は59通でした。

入賞者の方に川柳を作った背景や思い、男女共同参画に対する感想や意見などをお聞きしました。

最優秀賞
1席



「今日からは 笑顔でごみ出し 八十路まで」

(竹島町 服部光宏さん)

“二人で一人前”と力を合わせ、自営業を営んでまいりました。老後を二人で楽しんでいこうと、週2日のごみ出しと資源ごみの日は早起きし、妻にせめてもの感謝と笑顔で頑張っております。この気持ちをうたわせてもらいました。

優秀賞
3席



「だんらんの 時間をつくる 家事分担」

(一色町 藤田典央さん)

学校や仕事に行っていると、家族はすれ違いがちです。家族で家事を分担して協力することで、だんらんの時間は作るものだと思います。



「ゴミ出し日 隣もやはり おとうさん」

(神ノ郷町 小林侘び助さん)

まさに私の日常を素直に写した作品。男でもできることは何でもやれば面白いもの。男女共同参画もけっこうですが、男らしさ、女らしさは失ってほしくないですね。



「行きはパパ 帰りはママ 通園時間もバッチグー」

(大塚町 坂口民子さん)

子育てはみんなの協力が必要です。子どもにとっても、父親と母親のそれぞれと話ができる、すばらしい時間をつくれたらいいなという思いからこの川柳ができました。



駒久家南朝氏(落語家)

また、フォーラムにて、この入賞川柳の内容をもとに創作した落語を公演していただいた駒久家南朝さんからのメッセージです。

「川柳の入選作をもとに落語を創って下さい。その後チェリッシュのコンサートがあります。」というご依頼に、“チェリッシュに会える！”という事しか理解できぬまま引き受け、老化し始めた脳に鞭打って何とかオチまでたどり着きました。自分にとって、男女共同参画というこれまでに関わったことのない内容と大きな会場で、1000人の方に笑っていただくという何とも言えぬ快感を味わせていただきました。

はばたき 第15号
2009.3

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

発行／蒲郡市 企画広報課

編集／「はばたき」編集委員

〒443-8601 蒲郡市旭町17-1

TEL 0533-66-1162 FAX 0533-66-1190

Eメール kikaku@city.gamagori.lg.jp

編集後記

誰もが時間に追われる毎日を送っていると思います。それは生活の糧である仕事だったり、介護や育児など人それぞれですが、たまには立ち止まってワークとライフのバランスを見直してみませんか。厳しい経済状況ともあいまって、社会の仕組みや私たちの考え方も変わりつつあります。長い人生設計において、これまでの生活を見つめ直すことはとても有意義なことだと思います。今号の「はばたき」がそのきっかけとなれば幸いです。